

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 041	提案機関名 神奈川県酪農業協同組合連合会			
要望問題名 県内流通を促進するためのロールベールサイレージの品質管理技術の開発				
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 最近の国際情勢の影響により、輸入粗飼料価格のさらなる高騰や品不足により入手が困難になる状況が続いている。このような状況から、国内では自給飼料の生産が拡大し、国産粗飼料の広域流通も促進されている。本県においても同様に、県内産粗飼料が流通している。 自給飼料は、栽培・収穫の状況により栄養価が異なるが、購入した農家ではあらかじめ栄養価を分析することは困難であり、購入時に栄養価がわかると効率的に利用することが可能となる。また、自給飼料の多くは、ロールベールサイレージに調製されて流通するが、ロールベールサイレージは開封しないと発酵品質がわからないため、購入先でカビの発生や変敗などにより利用できないものが発生すると、流通が縮小する可能性がある。 そこで、収穫の状況からサイレージの栄養価を推定する方法、開封せずにロールベールサイレージの発酵品質を判定する方法について検討をお願いしたい。				
解決希望年限	①1年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内	③4～5年以内	④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター	<input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター	③水産技術センター	④自然環境保全センター
備考				

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部				
対応区分	①実施	②実施中	③継続検討	<input checked="" type="checkbox"/> ④実施済	⑤調査指導対応	⑥現地対応	⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合) ロールベールラップサイレージの品質管理方法の検討 (H27～R3年度)						
対応の内容等	本県の飼料作物草種として、令和4年度では栄養性、収量性に優れたトウモロコシが59.4%を占めています。トウモロコシサイレージの栄養価の推定方法として、茎葉乾物収量及び雌穂乾物収量からTDN含量を推定する方法(新得方式)が一般的に用いられています。また、近年県内で作付面積が増加傾向にあるイネWCSについても、穂重割合からTDN含量を推定する方法が考案されています。 開封せずにロールベールサイレージの発酵品質を判定する方法については、サイレージから放散するガスによりその発酵品質を推測する方法を研究しましたが、コスト面などの課題から実用化には至りませんでした。						
解決予定年限	①1年以内	②2～3年以内	③4～5年以内	④5～10年以内			
備考	「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第7版」一般社団法人日本草地畜産種子協会 https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/tikusan/attach/pdf/tohokukouchikurenkeinowa-38.pdf 「ロールベールサイレージから放散するアンモニアガスの測定方法と放散アンモニア量によるサイレージ品質の推定方法」神奈川県畜産技術センター成果情報(2017) 平成29年度研究成果、 https://www.pref.kanagawa.jp/documents/38317/4889.pdf						